

# スモークフリーキャンパスをめざして

高橋 正行<sup>1)</sup>

## Smoke Free Campus

Masayuki Takahashi, MD, PhD

Key words : Smoking Ban, FCTC, Smoke Free Campus, Nicotine Addiction

### 1. はじめに

タバコの有害性が世界中で認識され、世界保健機構の健康分野における初めての世界条約であるFCTCに日本を含むカ国が調印し、条約が成立した<sup>4)</sup>。日本では2003年に成立した健康増進法で受動喫煙対策が明記され、多くの教育機関での喫煙対策が進行している<sup>1, 4)</sup>。びわこ成蹊スポーツ大学(BSSC)は2003年の開学以来、敷地内禁煙を実施し、大学としては先駆的な取り組みとして注目されている<sup>5, 6)</sup>。保健安全管理委員会では健康診断時にタバコに関する調査を行っている。

### 2. 研究の目的

敷地内禁煙の方針で開学した新設スポーツ系大学であるBSSCにおける喫煙率の年次推移を調査し、禁煙方針が学生の喫煙率に与える影響について明らかにする事を目的とした。

### 3. 方法

4月の健康診断時にタバコに関するアンケート調査と呼気ガス中の一酸化炭素濃度を測定し、学生の喫煙率を調査している<sup>2, 3)</sup>。健康診断の受診率は95%を超える高い数値を毎年維持出来ている。喫煙習慣の有無、喫煙開始年齢、一日の喫煙本数などを無記名で調査し、呼気ガスのCOはスモーカーライザーで計測した。アンケートではタバコに関する意識調査も含まれるが、今回は喫煙習慣の有無について報告する。

### 4. 結果

男子学生の結果を表1・図1に、女子学生の結果を表2・図2に示す。

男子学生の入学年に着目すると、入学前の喫煙率は2003年の18.1%から2008年の3.9%へ激減している。1年次で入学前より喫煙率が低下している点は禁煙キャンパスである効果が出ている可能性がある。残念ながら、2, 3, 4年と学年が進行すると喫煙率が上昇している。4年生では年度毎に喫煙率が少しずつ低下している。

女子学生は入学前の喫煙率が低いが、年度毎に喫煙率が激減している。入学前より1年生の喫煙率が低下している。2003年・2004年入学生に比較して、2005年以後の入学生での喫煙率が低い事が注目される。

### 5. 考察

タバコは最大の健康への脅威である。禁煙政策はFCTCの基準が調印国である日本は遵守すべき最低のレベルである。多くの国で禁煙法・受動喫煙防止法が制定されているが、日本では罰則規定のない健康増進法しか存在しない。たばこ事業法と日本たばこ会社(JT)の筆頭株主が財務省である事が最大の妨害因子である。喫煙率を低下するには、タバコの値上げと図や写真によるタバコの警告表示の有効性が報告されている。しかし、教育機関における禁煙は2003年以後、急速に進行した<sup>1)</sup>。小学校・中学校・高校では健康増進法が求

1) 競技スポーツ学科

表1. 入学年毎の男子学生喫煙者率の年次推移

入学年	入学前	1年	2年	3年	4年
2003年	18.1	15.2	22.8	18.8	20.9
2004年	11.1	9.8	15.8	16.3	20.7
2005年	12.6	6.4	12	15.3	17.6
2006年	8.7	8	8	12.8	
2007年	4.8	1.7	11.2		
2008年	3.9	1.6			

表2. 入学年毎の女子学生喫煙者率の年次推移

入学年	入学前	1年	2年	3年	4年
2003年	9.1	6.8	10.1	12.4	11.3
2004年	5.2	5.2	7.0	10.8	1.3
2005年	2.4	1.2	2.9	4.2	5.7
2006年	5.9	2	1.6	3.7	
2007年	1.4	0	0		
2008年	2.1	0			

図1. 入学年毎の男子学生喫煙者率の年次推移  
びわこ成蹊スポーツ大学男子学生

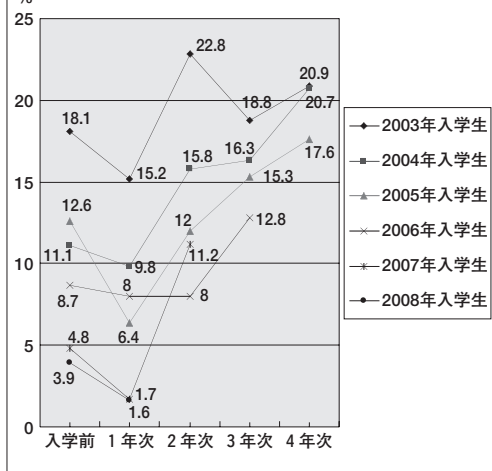
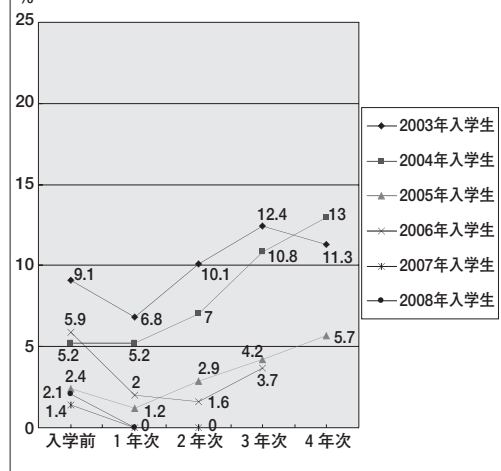


図2. 入学年毎の女子学生喫煙者率の年次推移  
びわこ成蹊スポーツ大学女子学生



める屋内禁煙よりも敷地内禁煙が多い。BSSCにおける敷地内禁煙へのチャレンジの結果には全く満足出来ない。到達目標は学生にも教職員にも喫煙者がゼロになる事である。その結果, 「スモークフリーキャンパス宣言」が出されるように今後, 絶え間ない努力が必要となる。スモークフリーキャンパスでは, 喫煙者を入学させない事と喫煙者への退学処分が必須となるが, 高校生の喫煙率がゼロではない事と日本での喫煙対策の不十分さから, 早急な実施は困難である。今回の報告から, 現状に満足せず, スモークフリーキャンパスへの具体的な対策を考える第一歩としたい。

謝辞: この研究は保健安全管理委員会ならびにトレーニング・健康コースと学校スポーツコースの学生の協力の成果です。

参考文献

- 1) 家田重晴 (2009年) 大学の禁煙・分煙 <http://openweb.chukyo-u.ac.jp/~ieda/P-university.htm>
- 2) 小浜明・宮本友弘・金森雅夫・高橋正行・森昭三 (2003年) キャンパス内全面禁煙化にともなう学生の喫煙行動・意識の変化 (1) 近畿学校保健学会
- 3) 小浜明ら (2005年) 大学における構内全面禁煙ポリシー評価 (中間報告) びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要第2号 pp81-91.
- 4) 高橋正行 (2009年) タバコ規制対策の現状 禁煙外来の最前線 禁煙を成功に導く戦略・戦術 モダンフィジシャン12月号pp1691-1695
- 5) 高橋正行 (2005年) スポーツにおける禁煙の推進 臨床スポーツ医学, 22 (11) : pp 1436-1438.
- 6) 高橋正行 (2007年) 禁煙学 南山堂